巻　頭　言

国際情報発信強化科研費 WG 前委員長
寺尾　宏明

国際情報発信強化，特に，ASPM のケース

一般社団法人日本数学会は，科学研究費助成事業の種目のひとつである研究成果公開促進費，その中でも特に「国際情報発信強化」を助成する科研費を獲得している（この科研費を，以下「国際情報発信強化科研費」，あるいは，単に「本科研費」と呼ぼう）．採択期間は，平成 29~33 年度の 5 年間，現在までの助成額は 840 万円（29 年度），880 万円（30 年度）である．本科研費の代表者は，当然，日本数学会理事長であるが，日常的に，科研費使用の計画と執行の審議組織として「国際情報発信強化科研費ワーキンググループ（以下 WG）」が設けられている．筆者は，縁あって，31 年 3 月末まで，WG の委員長を務めた．その経験を材料に，「国際情報発信強化科研費」の趣旨，日本数学会の本科研費によるこれまでの実績，特に，日本数学会の会員諸氏にお伝えすべき改善点，そして，将来への期待について述べたい．

研究成果公開促進費（学術定期刊行物）が，研究成果公開促進費（国際情報発信強化）となり公募が開始されたのは 25 年度であった．これは，名称の変化にとどまらない大きな改革であった．今になって振り返れば，筆者は 22~24 年度に日本学術振興会学術システム研究センター研究員として，研究成果公開促進費（学術定期刊行物）の改良に繋がった（かも知れない）初期の議論に参加していた．その際，財政状況の厳しい学術定期刊行物の通常経費を出すための財布として，この研究費が使われている例があり，結果的に，刊行物の「進化」をむしろ阻害しているのではないか，という批判があったと記憶する．そして，研究成果公開促進費（国際情報発信強化）は，学術刊行物の「進化」を促すものとされ，「進化」の方向は，（1）「国際化」と（2）「オープンアクセス化」となった．より具体的には，（1）（特に文系において）日本語刊行物の英語化・国際発信と（2）刊行物の学術成果を世界の多くの人が電子的にできるだけ簡単にダウンロード（DL）できる体制の構築，ということになろう．

日本数学会の刊行物は多数あるが，本科研費の研究計画で，優先度の高い対象とされているのは，Advanced Studies in Pure Mathematics（ASPM）である．ASPM は，36 年前の 1983 年に第 1 巻が発刊され，昨年度には，第 78 巻の電子版がすでに作成されている．初期の巻を中心に現在まで，優れた論文が多数あり，シリーズ全体としての学術的価値は今も高い．ASPM は，日本数学会の有する貴重な学術資産のひとつであるがゆえに，将来にわたって，持続可能な叢書として続いて行くことが望まれる．一方，ASPM は，現在，幾多の問題を抱えている．最大の問題は，販売の

不振である．春と秋の数学会などの機会に，無料配布による在庫整理を試みたが，それでも余剰在庫が倉庫に残ってしまい，一昨年には，冊子体 ASPM を大量廃棄したという現実がある．販売の不振の原因は多分に複合的なものであり，どこから手を付けるかは難題だが，どこかから手を付けないと何も始まらないので，WG としては，ASPM の電子版の国際的な visibility を高めることを最初の目標に置き，世界の数学者にとって使いやすいものにすることを目指した．それは，本科研費の趣旨に即したことでもある．しかし，そこには，意外な障害が私たちを待ち構えていた．それは，日本数学会とアメリカ数学会（AMS）との間で結ばれている ASPM の頒布契約が，日本数学会の ASPM のウェブ上の頒布権が（北米において）制限されるように解釈できることであった．これは，知的財産権に係る国際的法律問題であり，日本数学会の手に余る問題であったが，ここを避けては，日本数学会によるオープンアクセス構想自体が画餅に帰す．この状況の下で，都内大手弁護士事務所に属する複数の外国法事務弁護士の協力を，Pro bono（Pro bono publico=「公共善」）というかたちで得ることが出来たのはまことに幸運であった．Pro bono は，専門家ボランティアとも言うべき制度で，無償でサービスが提供される．AMS との交渉では，外国人弁護士の協力を得て，英語の条文の細部に至る助言を受けつつ，また，AMS にも大きな度量で趣旨をご理解いただき，30 年 1 月には円満に新合意書締結に至り，ASPM 電子版のウェブ上の頒布権を世界中で日本数学会が手にすることが出来た．（なお，この弁護士事務所には，後に，日本数学会理事長からの感謝状が渡された．）

出版後，5 年を経過した ASPM 電子版の無料公開は，すでに AMS の好意により，AMS の管理するサイトから行われていたが，巻単位での DL しか提供されて来なかった．しかし、新契約の下で，30 年 2 月に，日本数学会が Project Euclid (*) と合意し，ASPM の論文毎の DL を実現した．興味を持つ論文をたくさん DL していただきたい．DL 数は国際発信力の重要な指標のひとつとみなされる．

筆者が学位を得た頃に誕生した ASPM は，数学者としての自分史と重なる部分が多い．古い巻を見れば，自分の若かりし頃を思い出す．次世代の数学者の方々も，ASPM というバトンを「進化」させつつ，次々世代に繋いで行っていただきたい．社会の動きに密着して活動している弁護士が，数学研究の成果を無償で世界に発信することを「公共善」と位置付けてくれた．現在の社会（空間方向）への情報発信は，将来（時間軸方向）への情報発信力強化に繋がるはずであり，将来の社会への「公共善」にもなると信じている．

最後になったが，本科研費 WG の過去 2 年間の活動に関してお世話になった日本数学会関係者に深謝したい．個人名を挙げなかったのは，あまりに多くの方々にお世話になったからである．

(*) https://projecteuclid.org/euclid.aspm